



## 4年生 福祉を学ぶ

17日(水)は、4年生が総合的な学習の時間の中で、「ささえりあ帯山(熊本市高齢者支援センター)」から講師を招き、高齢者疑似体験と車いす体験をしました。高齢者疑似体験では、高齢者疑似体験セットを付けることで、手足を上げたり曲げたりしにくくなり、目も白内障のようにかすみ、見えにくくなるそうです。こうした身体機能の低下を体感し、高齢者の心理状態を想像することで、高齢者を理解し、高齢者の気持ちを汲み取るための一助となると思います。

また、車いす体験では、車イスを利用している人がどのような不便さ、不安感を味わっているかを具体的に体験しました。高齢者・障害のある方にやさしい社会とは、様々な人にとってもやさしい社会であり、多様な心身の特性や考え方を持つ人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことだと思えます。以下は子供たちの感想です。



- 👤 高齢者体験をして、すごく緊張したけど、ペアの人が支えてくれたので、安心しました。車いすを押してみると、想像以上に重かったのでびっくりしました。
- 👤 車いす・高れい者ぎじ体けんをして、いろんなことが制限されたり、やりたいことができなかつたりして、これが四六時中続くのは辛いだろうけど、介助してくれる人は希望の光のような存在だと思いました。介助してみてもっとのことで人を支えると心が温かくなると思いました。
- 👤 ブルーの「生命を大切に」のピースが伸びたと思います。なぜなら、お年寄りには腰などが痛くてもがんばっているから、私は困っていそうな方がいたら助けたいです。

## 1年生凧揚げ

昨日17日(木)、運動場から賑やかな声が聞こえてきたので、行ってみると、1年生が凧揚げをしていました。1年生が生活科の学習に、世界でたった一つのオリジナルの凧を作り、それを使って凧揚げをしました。子供たちは、真っ白な布に、マジック等で凧に自分の好きな絵を描いたり、色を付けたりして嬉しそうに凧作りをしたそうです。昨日はその凧を使っていよいよ本番を迎えました。風があまり吹いていませんでしたが、子供たちは出来上がった凧を揚げることにはじめは苦労していましたが、コツをつかんで高くまであげることができている子もいました。凧揚げをした子供たちは、「楽しかったです。」「自分のつくったものだからうれしい。」「もっと高く飛ばしたい。」などと感想を述べていました。子供たちは、手作りの凧で遊んで、凧揚げのコツや楽しさについて気付きを話し合うことで、日本の伝統的な遊びにふれることができました。

